

教材開発研修（甲賀）に参加して

理科教育専修 修士1回生 G

11月22日と23日に奈良ESDコンソーシアム教材開発研修に参加した。甲賀市は滋賀県の南側に位置しており、三重県との県境の市である。今回の教材開発研修では、甲賀市土山町を訪れ、やまうちエコクラブが行っているふるさと絵地図や地域住民の聞き取り調査に参加した。

この教材開発研修に参加して得たものを3つの視点から振り返る。その3つの視点は、第一に地域住民の明るさについて、第二に記憶に残る経験について、第三にふるさとの記憶を残していくことについてである。

第一の地域住民の明るさについては、今回の聞き取り調査では、7人の地域住民の方から聞き取り調査をすることができた。また、山内公民館で行われていた文化祭にも参加することができたので、そのとき地域住民が体験する切絵を体験することができた。特に2日目に黒川市場で、昔の女性の暮らしを聞き取り調査した際には、昭和8年から12年生まれの方が、いきいきとした話しぶりであった。私の地元では、このようにいきいきとした住民を見るのが少ない。このようにいきいきとしていることに何か原因があるのではないかと思った。



鍋家さんの話を伺う

第二に記憶に残る経験については、これも聞き取り調査をしている最中に感じたことである。例を挙げると、黒川市場での聞き取り調査にて、どじょう取りの話や、昔のおやつの話、どぶろくを隠した話などたくさん話を聞くことができた。どじょう取りの話では、その当時使用していた道具を事細かに覚えておられた。この話を伺っている際に、どの記憶もその当時の情景をそのままに覚えておられると感じた。また、どの話のどれもが、「楽しかった」「必死であった」「おいしかった」など、自分がその時感じていた感情と一緒に覚えておられた。このような話を伺っているときに、今の子どもたちはどのようなことを数十年後に思い出すのかを考えていた。体験学習や総合的な学習の時間など、子どもたちが体験して数十年後にその時の様子を、その時の感情とともに語れるような時間を作れるようになりたいと感じた。

第三にふるさとの記憶を残していくことについては、今回の聞き取り調査はふるさとの記憶を絵地図にするための活動の一部であった。現地の様子を地図に書き込む活動はいくつか見たことがあるが、昔の暮らしを地図にするような活動はあまり見たことがないと思った。地域の昔の暮らしを見つめなおすことができる絵地図が地域に残されていくことで、この絵地図を見た地域の子どもたちが自分の暮らしを見直すきっかけにすることができるのではと感じた。

最後に、今回の教材開発研修を通して様々なことを学ぶことができたと思う。地域住民の話を伺ったことで、より明確に今回訪れた土地のことを知れたと感じた。その一方で、今回の活動をどのように自分のESD活動に生かしていくのか考える必要も感じた。自分自身でも勉強を進め、今後のESDの活動に生かしていきたい。